

◆関東羈旅 (カントウキリヨ) No.35
和紙のふるさと(埼玉県小川町)

三光神社

朝夕に秋冷えを感じる休日、1300 年の歴史を誇る和紙で有名な埼玉県小川市を訪れました。小川町には外秩父ハイキングの散策コースがいくつかあり、官ノ倉山(かんのくらやま)から石尊山(せきそんざん)を抜けて埼玉伝統工芸会館を目指すことにしました。東武東上線「東武竹沢駅」から徒歩 10 分ほど歩くと登山口「三光神社」があります。三光神社は一般に妙見様(みょうけんさま)で知られ、鎌倉時代に創建されるも明治維新の神仏分離によって「日・月・星」を祀る三光神社へと改称され、近隣町村に鎮座する神社と三姉妹との言い伝えもあります。長女に三光神社、次女に東秩父村安戸の身方神社、三女に秩父神社とのことです。

ひっそりとした神社境内に進むと、御神木として地元の信仰を集めている樹高 35 メートルの大杉があります。

厳かな雰囲気的神社でお参りして登山道を進むと視界に鏡のような天王池が広がり、水面に映る森の景色に神秘を感じます。途中の山道でクマよけの鈴が無いことに気付き、足を鳴らしながら登って行くことにしました。

川柳・三光神社にて

- ・最寄りでも 通過列車の 多い駅
- ・木漏れ陽が 三光神社 きらめかせ
- ・秋の陽に 明鏡止水 天王池
- ・登るほど 陰しさが増す 登山道

官ノ倉山

頂上までの登山道は天王池を過ぎると本格的な山道になり、峠までの傾斜はかなりきつく、ガイドブックで人気のハイキングコースと紹介されていたことから「初心者レベル」と甘く見ていたのですが念のため万全の心構えで準備して良かったと思いました。途中で水分補給をして狭い頂上に辿り着き、景観を眺めながらインスタントコーヒーを味わい昼食休憩をとりました。

官ノ倉山頂上からは、ダウンアップの峰伝いに石尊山頂上を経由しふもとに戻ると、稲架(はさがけ)が続く平坦な里道となります。秋風を感じながら 8 世紀に行基が開山したという名刹(めいさつ)「長福寺」のほか、14 世紀創建と伝えられる八幡神社を散策し、小川和紙などの伝統工芸を紹介している「埼玉伝統工芸会館」に向かいました。

- ・昼食に 風味加える 山の風
- ・はさがけに 田舎を想う 秋の道
- ・和紙漉きも 体験すれば みんな好き

女郎うなぎと温泉

埼玉伝統工芸会館の入口には、紙漉きの作業を模したオブジェがあり、工芸の里物産館が隣接し

ています。「生活に潤いと美しさを」という願いを込めて建設された施設で、和紙を使った見事な工芸品が並んでいました。鑑賞後はゆっくり温泉でもと思い「小川駅」から徒歩 10 分ほどのおがわ温泉「花和楽(かわら)の湯」に向かいました。

花和楽の湯は通称美人の湯。そして全国でも珍しい全量総入替方式で「一湯一会」の湯。ゆっくりとつかり心身ともにリフレッシュできました。

温泉の後には秘伝の味「女郎うなぎ」の有名店「福助」に寄り、蒲焼を注文しました。

女郎うなぎの由来は「訳あって引き取った花魁が終世の恩返しにと、うなぎ蒲焼の秘法極意を教えてください、花魁が伝えたうなぎ料理だから”女郎うなぎ”として代々伝えている」とのこと。案内された部屋は小説家「田山花袋」が訪れていたと聞き、文豪も味わったであろう秘伝の味に舌鼓を打ちました。

- ・ 伝統を 風で伝える 小川和紙
- ・ 蒲焼きの タレに感じる 思いやり

「海員だより」